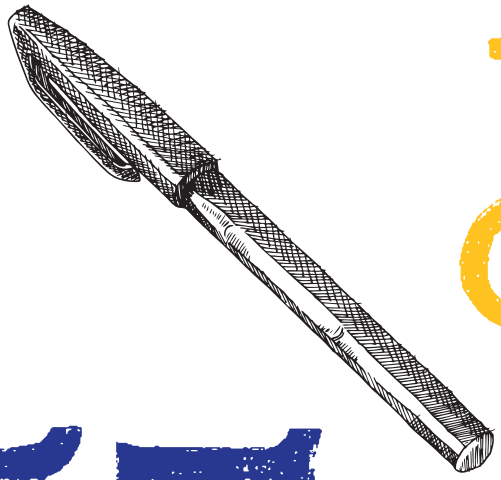
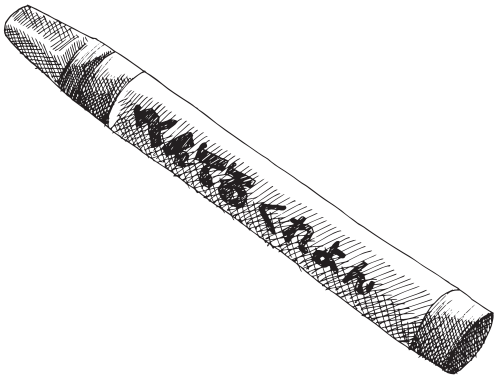
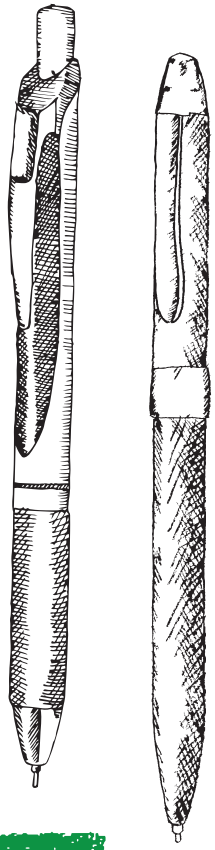
表現する





信じる

vision book



Discover the best

Pentel®

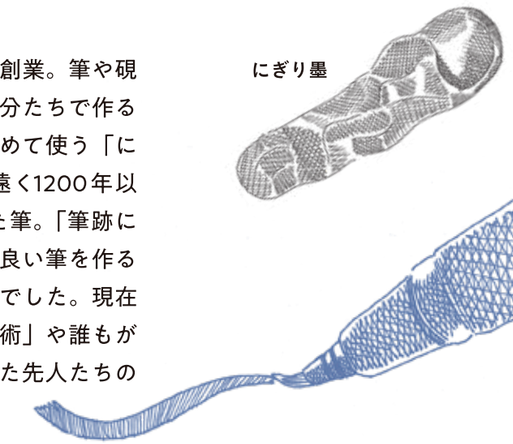
それぞれの人が、描いたり書いたりする、線や形、
そして文字は、力強やったり、優しさが滲み出ていたりして、
それぞれの人の個性がある。
ここに、描く、書くといった表現する文化の大切さが
あるような気がする。
没個性の時代、その文化をたぐり寄せる努力をすれば、
べんてるは、更に社会から必要だと思われる会社になる。

代表取締役社長
和田 優

筆づくりへの想いと技術が ぺんてるのルーツ

筆から受け継がれる技術と想い

ぺんてるの前身となる堀江文海堂は、1911年の創業。筆や硯を扱う卸売業からスタートし、やがて商品を自分たちで作るようになります。墨をクレヨンのように握り固めて使う「にぎり墨」は当時の目玉商品でした。そして、遠く1200年以上も昔から、日本人にとって身近な存在だった筆。「筆跡にはその人の個性が宿る」と考えられ、書き味の良い筆を作るには優れた職人による高度な筆先の技術が必要でした。現在のぺんてるが持つこだわりである「先っぽの技術」や誰もが使えるように「敷居を下げる」ことは、こうした先人たちの想いや技術が受け継がれたものなのです。



クレヨンから始まる表現具への挑戦

終戦後、日本を統治していたGHQの指示のもと、学校での習字教育が禁じられることになります。後のぺんてる創業者となる堀江幸夫は、「これからは絵や音楽など芸術文化が広く普及することになる」と考えました。そこで子どもたちのために、表現を学ぶ道具を筆に代わる形で作ろうと、当時まだ珍しかったクレヨンの製造を行うことを決断。当時の社員たちとともに独学で文献を探し出して製造方法を学び、自ら装置を調達して、事業を立ち上げます。ここに、ぺんてるのもうひとつのこだわりである「色」のルーツが生まれ、いまにつながる表現具開発への挑戦が始まるのです。

02 表現具のいま
NOW OF THE EXPRESSION TOOLS

ENERGEL

使う人の気持ちに寄り添い、進化を続けるボールペン

2000年にアメリカで販売を開始して以来、性能をアップデートしながら進化し、現在では全世界に展開されるゲルインキボールペン「ENERGEL（エナージェル）」。「GEL＝インキ」を意味する名前を冠するこの製品は、「なめらかな書き味」「濃く鮮やかな筆跡」「優れた速乾性」の３つの高い品質レベルによって、多くのユーザーから支持を受けています。0.3mmから1.0mmまでの幅広いボール径やインキのバリエーションを広げ、あらゆる人のあらゆるシーンで“書く”“描く”を支える。まさに、ぺんてるの原点である「先っぽの技術」「敷居を下げる」を受け継ぎながら発展させるとともに、“表現具”のスピリットを体現する製品となっています。

多様化する価値観やライフスタイルといった社会の変化に伴い、ぺんてるはいま、これからの表現具のあり方について想いを巡らせ、さらなる ENERGEL の進化に取り組んでいます。大人の女性のさまざまな生活シーンに寄り添う「ENERGEL Clena（クレナ）」や、これからの新しいワークスタイルを応援する「ENERGEL infree（インフリー）」はどちらも、ユーザーの気持ちに寄り添うことで生まれました。これからも使う人の想いを第一に考え、「感じるままに自由に表現する道具」を探求していきます。

表現具ありきで考えるのではなく、人の生活の中に表現具がある。その前提を大切にして、ペンと人が肌身離さず一体となって行動するようなシーンを提案できたらと思います。

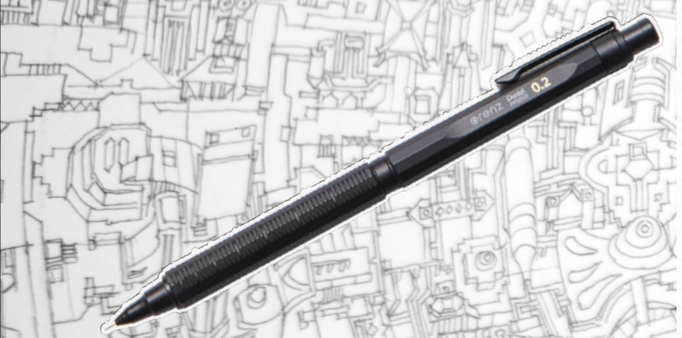
商品開発本部 デザイン室
プロダクトデザイングループ　森田真央

ENERGEL の品質やぺんてるブランドは、アメリカでも多くのユーザーに支持されています。私たちは ENERGEL を “The Ultimate Writing Pen” と位置付け、生活者の記憶に残るステートメントとして展開をしています。これからも、この誇らしい製品の価値を広く伝えていきます。

ぺんてるオブアメリカ
セールスマネージャー　Gary Poillucci

表現具の原点はいま、どう受け継がれているのか

orenz



極限の技術で、新たな表現の扉を開くシャープペンシル

1960年、世界初となるノック式シャープペンシルを世に送り出して以来、半世紀にわたって技術を磨き続けてきたぺんてる。その系譜を受け継ぎ、2017年に誕生した「orenznero（オレンズネロ）」。シリーズの親となる、2014年にリリースされた「orenz0.2」は、ぺんてる独自の0.2mm芯を生かしつつ、芯が折れない「オレンズシステム」を盛り込んだ製品でした。orenznero はそこに、ノックなしで芯を出せる「自動芯出し機構」を加え、書くことに集中し続けられるという形で「先っぽの技術」を進化させました。シャープペンシルの表現具としての可能性を、その極限にまで高めた究極の一本として世に送り出されたのです。

こだわりのプロダクトデザインなども相まって、文具というカテゴリーを超えて話題を集め、多くのユーザーを魅了した orenznero。そうした支持の根底にあるのは、0.2mmという極細芯だからこそできる表現の幅。例えば、ふとしたアイデアをさりげなく記録できたり、後から読み返しても見やすく、そこから表現をさらに膨らませていったり…と、新たな“表現の扉”を開くきっかけを生んでいます。表現への「敷居を下げる」道具として、今後さらに利用シーンを広めていきます。

0.2mm 芯だけではなく、ぺんてるには原点の技術を受け継いだロングセラー製品が数多く存在します。そういった製品の魅力を広く発信していくことで、ユーザーの皆様にとっての「ぺんてるらしさ」を見出していただけたらと思います。

国内営業本部　マーケティング推進部
飯塚愛美

精密機器に近いレベルの技術を詰め込んで開発した orenz シリーズ。「書く」「描く」のすべてのシーンで価値を見出していただける製品だと思います。今後も、あらゆる人に使っていただけるようなシャープペンシルの開発を続けていきたいですね。

商品開発本部　シャープ企画開発部
シャープ開発課　伊藤好和

原点に新たな風を与える、ぺんてるのチャレンジ

Art brush
アートブラッシュ

「ワクワクする楽しさ」と「創造性」が協調していることがPentel Artsのテーマだと考えています。ユーザーの方々は、Art brushなどで描いた作品をSNSで「#pentelsingapore」というタグを通してシェアしてくださっています。ぺんてるの画材を通して、"art lovers"のつながりが増えていることはとても嬉しいです。

Pentel Singapore　グラフィックデザイナー
Diana Jacinto

国境を越えて、表現することへの「敷居を下げる」

海外市場で展開する画材カテゴリー「Pentel Arts」。画材というと、子どもたちが使うものというイメージがありますが、海外では大人のホビー用としての市場が確立しています。趣味としてのアートを楽しむという用途の中で、広く人気を誇るのが「Art brush」です。ぺんてるのルーツである筆にインキのカラーバリエーションを加え、ホビー画材として展開した製品で、日本の筆文化をさらに発展させて伝えるものとなっています。

Pentel Artsをより多くの方に体験してもらうためのさまざまなワークショップを世界各国で開催しています。最近の取り組みでは、2018年、Pentel SingaporeがArt brushで描いた漫画コンテストを主催し、たくさんの作品が集まりました。「敷居を下げる」ことへの想いはいま、国境を越えて新たな表現の可能性を生み出しているのです。

業種を超えて広がる「先っぽの技術」

創業以前からの筆技術を継承し発展させた、ぺんてる筆のナイロン毛。弾力性や耐久性に優れ、さらに太さや形状などをカスタマイズすることで、天然獣毛や合成繊維毛にはできない筆先の繊細な調整が可能です。この独自技術にいま、業種を超えて注目が集まっています。その中でもカネボウ化粧品のグローバルメイクブランド・KATEとの共同開発によって誕生した、高機能リキッドアイライナー「KATE スーパーシャープライナー EX」は、2017年2月の発売以来、大ヒット商品となっています。ナイロン筆の特性を生かし、「アイラインを単に“描く”のではなく、まつ毛とまつ毛の隙間を埋める」というアイデアが実現。目元に奥行きをもたらし、生き生きとした表情を生み出せる画期的な製品となりました。「先っぽの技術」の可能性は、文具にとどまらない広がりを見せています。

ぺんてるの筆技術は、化粧品業界以外からの期待値も高く、文具メーカーだからこその提案も求められています。こうした展開をきっかけに、より多くのユーザーの皆様との接点が増え、文具との相乗効果につながっていけばと思います。

化成品部　営業課　橋本奈央子

校舎の思い出プロジェクト

子どもたちの自由な表現を、一生の思い出として残すプロジェクト

2014年より、ぺんてるとキヤノンマーケティングジャパンは協同で、建て替えや統合、休校により取り壊される小学校を対象に、校舎での最後の思い出づくりを支援するプロジェクトをスタートしました。子どもたちだけではなく、保護者や卒業生などの学校関係者、地域の人々も参加し、校舎を一つのキャンバスに見立て、ぺんてるのクレヨンやえのぐを使って一人ひとりの思い出で彩ります。子どもたちが「思い出写真係」となり、制作過程や作品を一眼レフカメラで思い思いに撮影します。その写真は大判ポスターやフォトブックにして、小学校にプレゼント。勉強や遊び、先生や友だちとの出会い…子どもたちがかけがえのない時を過ごす小学校の校舎。そんな校舎で過ごした思い出が、描いた時間とともにずっと心に残っていく。創業からずっと、クレヨンから始まる表現具を子どもたちのために作り続けてきたぺんてる。その原点の想いを、いまの時代に合わせて世の中に伝えていく取り組みとなっています。

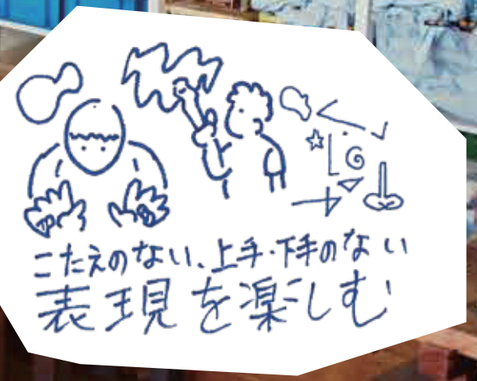
現在、新校舎での生活を始めていますが、前の校舎に感謝のメッセージを残し、きちんとお別れをしたことが児童の心の安定につながっているということを実感しています。全国にこの取り組みが広がっていくことを期待しています。

多摩第二小学校　佐島校長先生

子どもたちは、大人が及びもしない素晴らしい表現力を持っています。それを伸び伸びと発揮できるこの活動は、子どもたちにたくさんの感動を与えます。これからも閉校や改築の予定の学校の思い出づくりを応援してください。

二条小学校　中島校長先生

人はなぜ表現するのか



水島尚喜先生

みずしまなおき
聖心女子大学教授。文部科学省学習指導要領に携わる。元全国大学造形美術教育教員養成協議会会長。ローハンプトン大学、ボローニャ大学等で客員教授を務める。現在、美術科教育学会代表理事、美育文化協会理事。

想像力を育んできた、人類の工夫の歴史

子どもたちはよく、「お話をつくる」という遊びをします。あるものを別の何かに見立てたり、何かと組み立ててみたりなど、身の回りにあるもので物語を自由に創造している。これは人類が古代から300万年間にもわたって営んできた「工夫の歴史」。洞窟の壁画や日本の縄文土器などにも現れているこの営みが、人間の想像力を育んできました。子どもの頃は誰でも、こうした常識を覆して新しいものを生み出す「野生の思考」を持っています。しかし現代の教育では、文字や数字、プログラムなどの合理化、概念化された学びに重きが置かれ、想像力を弱めてしまっています。

表現具の可能性を、もっと広げてほしい

私たち美術科教育学会は子どもたちの中にある「野生の思考」を育むための活動を行っています。そこでカギとなるのは、五感を使った感覚体験。さまざまな素材に直接触れたり、道具を使ってみるなどの身体性を通して得られる気づきや発見が、豊かな想像力を育みます。ぺんてるの表現具は、まさにその機会を提供してくれるものだと思います。特に「ゆびえのぐ」は五感を刺激してくれる良い表現具ですね。表現具の使い方や楽しみ方にはまだ多くの可能性があります。ぺんてるには、想像力を育むためのきっかけを子どもたちだけではなく、大人たちにもっと積極的に伝えてくれることを期待しています。

想像力を育むことが、表現具の存在意義

そもそも「表現する(expression)」とは、こうした身体や五感の体験を通して得られた内なる気づきの蓄積を、自分なりのかたちで外に表わすこと。表現の前に、まず身体感覚があるのです。あらゆるものがデジタル化していく現代だからこそ、表現する道具の存在は、身体体験を通して想像力を取り戻していくきっかけとなりうるもので、そこには大きな価値があります。表現具を通して想像力を育んでいく中から、現代社会の閉塞感を打ち破るような新しい発想やアイデアが生まれたり、人がより良く生きるためのヒントが見つかるような気がしています。

表現具の持つ力

私たちは、感じるままに想いをかたちにできる道具をつくり、表現するよろこびを育みます

「描写具」でも「筆記具」でもない「道具」づくり

上手い絵を描くための「描写具」でもない、情報を伝えるための「筆記具」でもない。
感じるままに、頭の中の考えやイメージを
素直に表現する・伝えるための道具。
その「道具」は、デジタルツールの世の中にあっても、
きっと、人々に必要とされる「道具」であり続けると、
私たちは考えます。
そんな私たちの想いを、Vision として表現しました。

Vision の策定に伴い、
コーポレートステートメントも新たに設定しました。

ぺんてるには、
思いのままに気持ちを表現できる道具が揃っています。
“Discover the best”
という言葉には、それらを使ってあなたにとっての一番を
探求してほしいという想いを込めました。
そこに至るまでには、書き直したり、上手に描けなかったりすることもあるでしょう。
ぺんてるはそうした過程も大切にしたい。
結果だけがすべてではないのですから。

私たちの考える 表現の未来

Visionを実現していくために、私たちがこれからどのようなアクションをし、どのような表現具の未来をつくっていくことが望ましいのか。未来のぺんてるを担う若手社員たちに、自由な発想で議論してもらい、未来に向けた想いを“表現”してもらいました。

自分なりの
表現を楽しむ!!
馬場 麻佑花

日々の中にある
表現の場を
見逃さない!
尾辺尚美

愛着を持って
使ってもらえる
表現具のデザイン
梅谷 朋世

表現具と一緒に考えつづけたい。
アイデアを出したり、思いをまとめたり、
頭の中にあるものを形にするときは、
やっぱりペンと紙!
木内春花

上手・下手関係なく
皆が書く・描くことが
好きになる表現具を作りたい。
林 怜

隣にいるあの人が、
駅ですれ違ったあの人が、
地球の裏側で暮らすあの人が、
考えていること、感じていることを誰かに伝える
その助けになりたい。
谷地萌

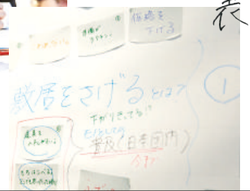
「文具」を
表現具の
中心に!!
横田康介

個性爆発
村山 祐太

文具は
楽しい!!
を伝えたい。
豊田慶太郎

ペン先と紙の
接している感覚を
追求したい!!
泉千晴

ぺんてるの商品で
たくさんの人を
わくわく
させたい!
小林隆太郎



自分の手で、気持ちを表現することを大切にしたい
カラフル・書きやすい・楽しいなどなど…
生活の中にとけこむ
表現具を作っていたい
三浦愛実

ぺんてるのあゆみ

1945 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010

社会の出来事

- 終戦
- 朝鮮戦争
- 米・リンドン・ジョンソン大統領政権
- 1970 日本万国博覧会（大阪万博）
  世界児童画展ブースに当時の皇太子殿下にご臨席いただいた。
- 札幌オリンピック
- 第1次オイルショック
- 1979 東京サミット
  ローリングライターが採用された。
- 平成景気（バブル経済）
- 年号が「平成」に
- サッカーW杯開催
- 2011 東日本大震災

ぺんてるの歴史

（1911年　堀江文海堂設立）

- 1946 大日本文具設立
- 草加工場設立
- 1950 美育文化協会設立
- 1953 輸出開始
- 1964 シカゴ文具国際見本市出展
  サインペンが大統領補佐官の目に留まり、ジョンソン大統領が愛用するきっかけに。
- 1965 ジェミニ-6号7号ランデブー
  サインペンがNASAの宇宙飛行士によって宇宙に。
- 吉川工場設立
- ぺんてるオブアメリカ設立
- 茨城工場設立
- 1971 社名をぺんてるに
- 1970 第一回世界児童画展
  「一家に一枚こどもの絵を飾ろう」というスローガンのもと、感性豊かな子どもの成長と美術に親しむ豊かな社会づくりに貢献することを目的に公益社団法人美育文化協会が世界40カ国から子どもたちの絵画を集めて実施している活動。
- 文具業界初 ISO9001認証 取得（茨城・吉川工場）
- ISO14001取得完了（国内3工場）
- 2006 創立60周年「世界で一番長い絵」ギネス認定
- 2013 ビジョンプロジェクト
  今後20年の企業としての指針であるビジョンステートメントを策定。「表現具」はここで言語化。
- 創立70周年
- 校舎の思い出プロジェクト
- GINZA RAKUGAKI Café & Bar
  ビジョンステートメントを対外的に具現化した場として企画された。
- 2017 青少年の体験活動推進企業表彰 文部科学大臣賞受賞
- 2018 メセナアワード2018 特別賞 文化庁長官賞受賞

製品の歴史

- 1947 メイローくれよん
  パラフィンと顔料の国産クレヨン。「新しい日本をつくるのに最も必要なのは教育である」との決意で、学用文具・画材の製造販売を開始した。
- 1951 ぺんてる（オイルパス）
- 1955 ぺんてるくれよん
  パステルに比べて線を描くような細かな表現にも向き、ガラス面にも描けるなど豊かな表現が可能。今も基本的なデザイン、優れた特長は変わらない。
- 1949 ドラゴンえのぐ（透明水彩）
  チューブ入りの国産透明水彩えのぐ。
- 1952 ぺんてるえのぐ（不透明水彩）
- 1962 ぺんてる水彩F
  透明にも不透明にも描ける。今もF水彩という名前で広く使われている。
- 2017 ピタージュ大人の水彩パステル
  油性パステルのような使い方と水筆による水彩表現が可能な大人のための画材。
- ピタージュ水彩スティック
- 2014 共同制作えのぐ
  子どもたちがみんなで一つの絵を描いたり、ものを作り上げるためのえのぐ。さまざまなものに描け、水で簡単に落とせる。
- 2018
- ゆびえのぐ 2015
  筆などの道具を一切使わず、指や手に付けて描いていくえのぐ。

- 1960 ぺんてる鉛筆（0.9mm）
  芯を削る必要がない細芯内蔵の世界初のノック式シャープペン。
- ぺんてるシャープ（0.5/0.7mm）
- ハイポリマー芯（0.9/0.7/0.5mm）
  粘土に替わり世界初の合成樹脂を使用したシャープ芯を開発。細芯を実用化。
- 1965 PG（グラフペンシル）
- 1968 メカニカ（0.3mm）
  世界初0.3mm芯を使用した製図用シャープペン。
- 1971 ケリー
  キャップを軸の後端にセットしてノックができる万年筆型シャープペン。
- 1973 PS1042（0.2mm）
  オレンズのルーツとなる世界初の0.2mmシャープペン。
- 1986 グラフ1000
  ロングライフデザイン賞を受賞し根強い人気の製図用スタンダードシャープペン。
- 1987 スマッシュ
  凝ったデザインと10万回ノックに耐えるタフネス、安定した書き味。
- マルチ8
  8本の色芯やボールペンが収納できる筆記具。編集者やクリエイターなど、愛用者の多いロングセラー商品。
- 2014 オレンズ0.2
  「0.2mmなのに不思議なほど芯が折れない」バイプスライド方式のシャープペン。
- 2017 オレンズネロ
  オレンズシステム＋自動芯出し機構搭載のフラッグシップシャープペン。

- 1963 サインペン
  筆のように書けて裏写りしない水性サインペンの元祖。現在も多くのクリエイターなどに愛されるロングセラー商品。
- 1967 ローリングライター
  水性インキ＋樹脂製ボールチップの独特の書き味のボールペン。
- 1972 ボールぺんてる
  樹脂チップと水性インキでなめらかな書き味。斬新なグリーンのボディが一世を風靡。
- 1979 ブラマン
  万年筆のペン先をプラスチックで実現させた。独特の書き味で、作家やクリエイターなどいまも世界中にファンが多い。
- 1989 ハイブリッド
  水性・油性両方の特長を兼ね備えた中性ボールペンとして登場。
- 1996 ハイブリッドミルキー
- 2000 エナージェル
  なめらかな書き味、濃い筆跡、速乾性に優れた新世代ゲルインキボールペン。
- 2018 エナージェルインフリー
  フリーアドレスのオフィスが似合う透明ボディのエナージェル。オレンジ、ターコイズブルーなどビジネスラインでありながら自由で新しいシリーズ。

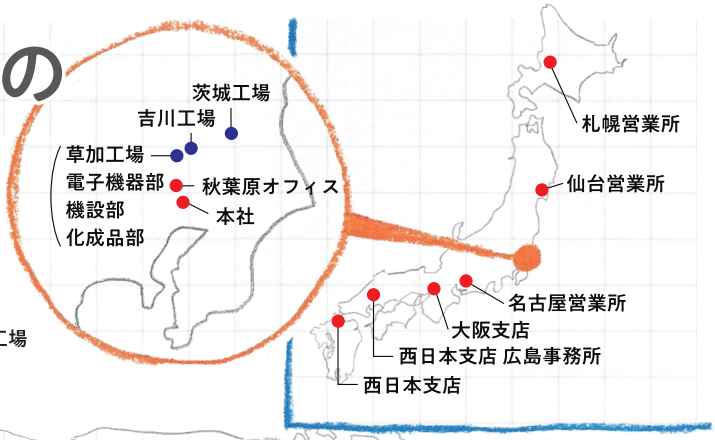
- 1946 にぎり墨
- 1976 ぺんてる筆
  ナイロン毛を使った毛筆タイプの筆ペン。独自のテーパー加工技術によって獣毛を使った筆と同等以上の品質。
- 1978 カラーブラシュ（海外）
  ぺんてる筆の技術を使って海外向けホビー用に開発。
- 2003 日本伝統工芸向け細密筆
  筆ペンで培った毛先を細く加工するテーパー加工技術や、配合・混毛技術に応用。
- 2012 アートブラシュ
  カラフルなインキのカラーブラシュをリニューアル。国内でも販売。カラー筆ペンが国内でもアート用として認知され始めている。
- 2017 ケイト スーパージャーフライナーEX
  カネボウ化粧品と共同開発した“精密極細筆のアイライナー”。ぺんてる筆の技術で革新の描きやすさを実現。

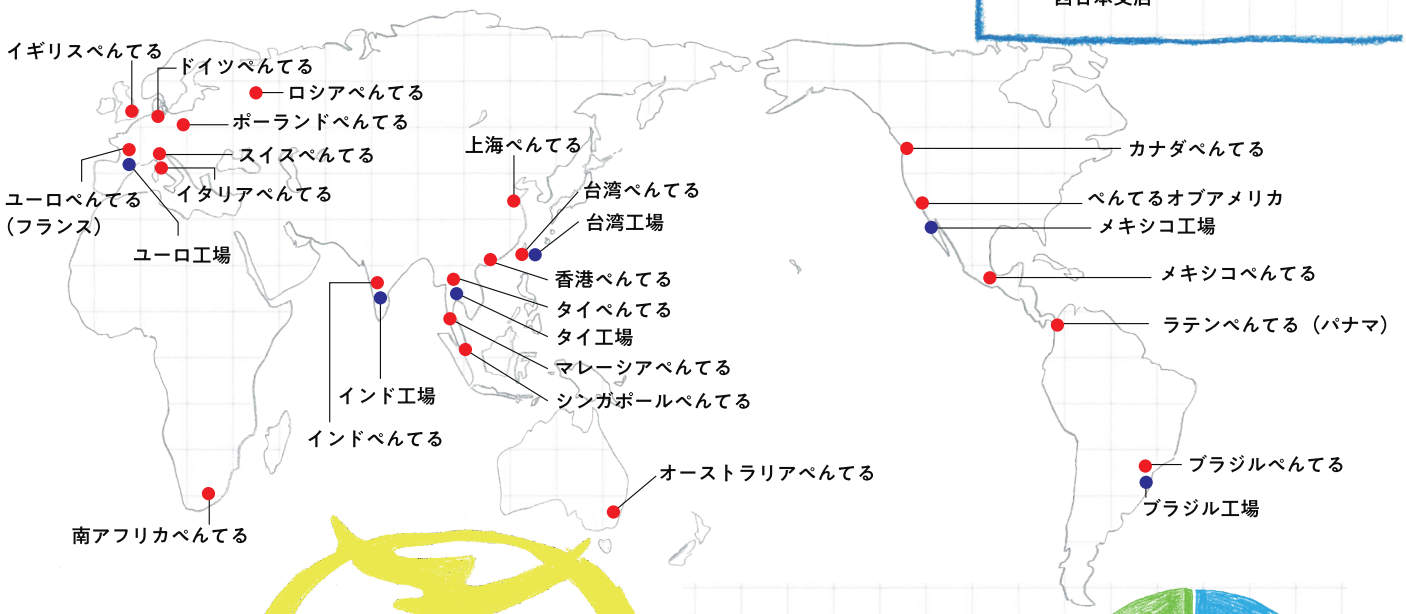
- 1983 ぺんてる修正液
  ペン修正液
  ハケ式に替わり世界で初めて開発された、ペンタッチ式を採用。
- 1975 ペンピュータを開発
  静電容量技術を利用した誰でも簡単にペンタッチで入力できる業務用コンピュータ。
- 2004 エアペン
  超音波赤外線方式のデジタルペン。紙の上に書くと同時に筆跡データがパソコンやスマホに保存できる。
- 2013 アンキスナップ
  アプリと文具を合わせた新しいカテゴリーのスマート文具。スマホ暗記文具。
- 2018 くみかえノート
  ワークショップなどの場でアイデアが出やすいようにデザインされたスマート文具。

ぺんてるグループのネットワーク

世界22の販売拠点で、
120以上の国と地域に販売網を構築

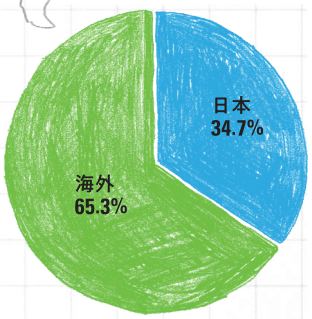
●本社、国内営業所、グループ会社　●工場



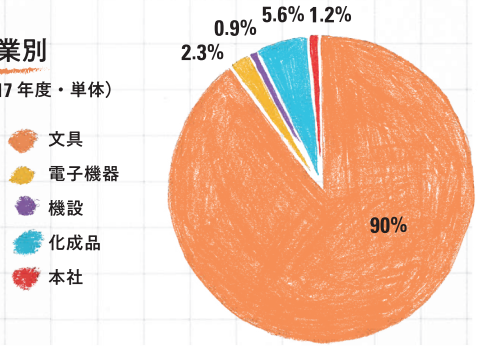


売上構成比

国内海外別
（2017年度・連結）



事業別
（2017年度・単体）



会社概要

社名:ぺんてる株式会社
PENTEL CO.,LTD.
本社:〒103-8538
東京都中央区日本橋小網町7-2
電話番号:03-3667-3333（代表）
代表者:代表取締役社長　和田 優
創立:1946年（昭和21年）3月

資本金:450百万円
従業員数:
2,893名（2017年度・連結）
706名（2017年度・単体）
売上高:
40,927百万円（2017年度・連結）
24,023百万円（2017年度・単体）

Discover the best

Pentel®